

施策分析シート（平成19年度）

No1

施策名	総合的な交通体系の整備	施策No	12-03	部課名	都市整備部都市計画課	課長名	齋藤栄志	内線	2860
関連部課名									
行政評価事業体系	分野	安全安心都市[]							
	政策	利便性の高い都市基盤の整備[12]							
目的	荒川区内の交通利便性の向上と交通弱者（高齢者、障がい者等）の移動手段を確保するとともに、自家用車等の利用抑制を図り環境に配慮したまちづくりを推進するため、公共交通の整備促進を図る。								
指標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明		
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値(28年度)			
	日暮里駅総合改善事業の推進	11.4%	25.5%	46.7%	64.5%	100%	工事進捗率（整備費）		
	日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想	25%	27.5%	50%	77%	100%	計画進捗率		
現状と課題（指標分析）									
	●平成17年8月につくばエクスプレスが開業し、19年度末には日暮里・舎人ライナーが開業する予定であり、これまでのJR線、京成線、地下鉄、都電荒川線と併せ、区内の鉄道交通の充実が図られている。さらに、平成22年度には、日暮里・成田空港間を30分台で結ぶ、成田新高速鉄道が開業する予定であり、日暮里駅の交通結節点としての役割が飛躍的に高まる。 ●年々、鉄道駅構内のバリアフリー化は進んでいるが、駅周辺のバリアフリー化は十分でない状況にある。 ●区内の鉄軌道の多くは南北に走っており、東西交通は都電荒川線のみで、南千住駅東側への交通手段が少ない状況である。このような中で、コミュニティバスは、利用者からの評判も良好であるが、双方向運行などの路線の充実の要望が寄せられている。 ●区内の交通体系整備は進んでいるが、環境交通対策への取組が不十分である。								
	[平成19年度]								
	●日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想に基づき、バリアフリー化を着実に進めていく。 ●さくら運行に関する検討会を活用し、利用者増による収支改善を図るため、バスの大型化・運行ルート拡大・バス停の新設などを検討する。 ●環境交通施策導入のための検討を行う。								
今後の方向性	[平成20年度以降]								
	●成田新高速鉄道が平成22年度に開業できるよう、円滑な工事の進捗を図り、適切な進行管理を行う。 ●日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想に掲げた事業を各事業者に確実に実施させるための進行管理を行うとともに、他の鉄道駅のバリアフリー基本構想策定を検討する。 ●コミュニティバスは、区民の利便性向上のため、双方向運行や路線拡大などを実現する。 ●自家用車等の利用抑制のため、環境交通施策の導入を図る。								

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	日暮里・舎人ライナーの開業、京成線日暮里駅の改造、コミュニティバスさくらの路線拡大等、公共交通を充実させ、自動車に頼らない環境交通を実現する。

施策分析シート（平成１９年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		17年度	18年度	前年度 設 定	今年度 設 定	
日暮里・舎人ライナー整備促進	09-01-04	89	91,099	A	D	19年度で整備完了予定である
交通バリアフリー整備促進事業	09-01-07	16	16	A	A	バリアフリー化は区民生活の必須条件であり優先度は高い
日暮里駅総合改善事業	09-01-11	160,176	240,250	B	B	公共交通機関として交通利便性向上に資するため優先度は高い
コミュニティバスさくらの利用促進	09-01-19	-	-	B	A	京成バスの自主事業であるが交通利便性に資するため優先度は高い
つくばエクスプレスの利用促進	09-01-20	100	70	C	C	既に開業したため優先度は低い
都電荒川線三ノ輪橋停留場改築記念式典	09-01-21	-	-	-	D	19年度単年度の事業である
合 計		160,381	331,435			